

中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

平成25年 7月～ 9月 実績

平成25年10月～12月 見通し

福井県商工会連合会

I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井北、福井東、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 165企業（回答率100%）
6. 調査対象期間 平成25年7～9月期実績及び平成25年10～12月期見通し
7. 調査時点 平成25年9月1日（日）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.6%	24	14.6%	100.0%
小売業	51	30.9%	51	30.9%	100.0%
サービス業	52	31.5%	52	31.5%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について〈増加・上昇・好転〉の割合から

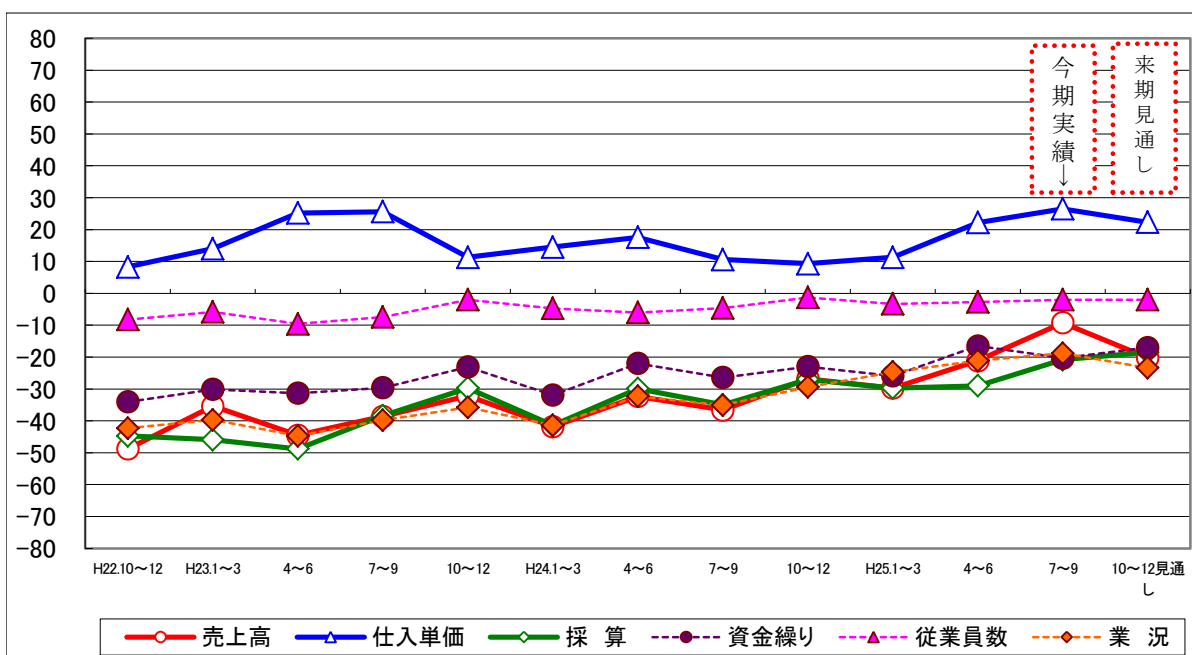
DI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

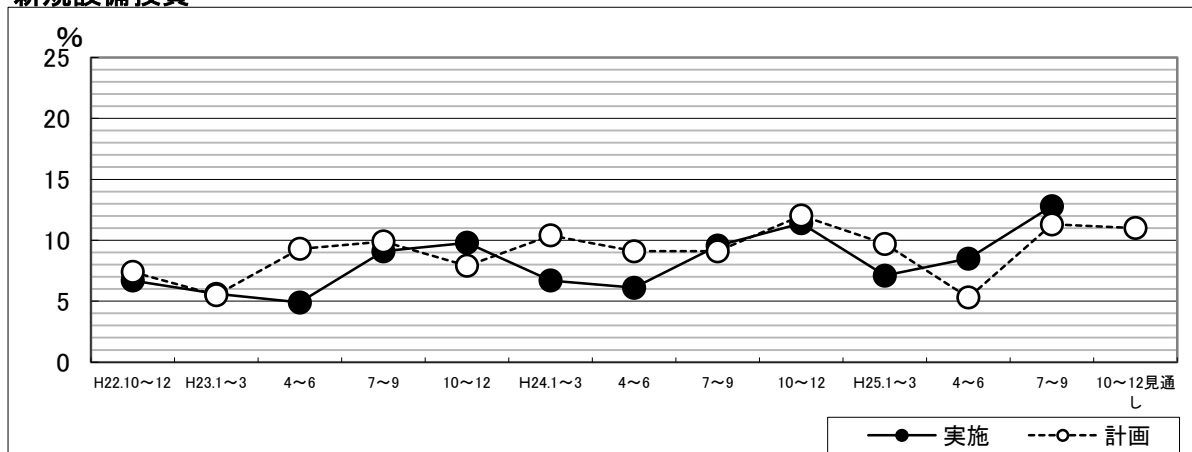
全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向推移(前年同期比:DI値)

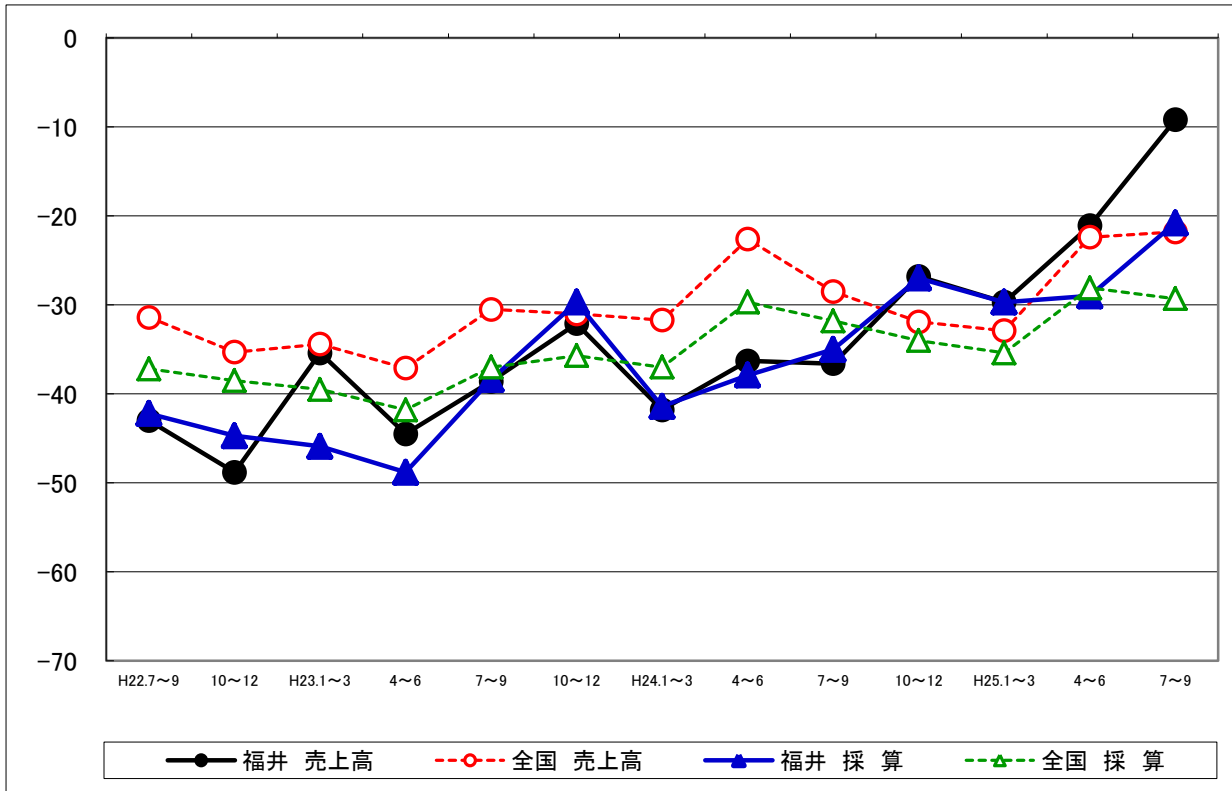
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H22.10~12	▲ 48.8	8.3	▲ 44.7	▲ 34.0	▲ 8.2	▲ 42.3
H23.1~3	▲ 35.4	14.0	▲ 45.9	▲ 30.1	▲ 5.8	▲ 39.7
4~6	▲ 44.5	25.2	▲ 48.8	▲ 31.3	▲ 9.6	▲ 44.7
7~9	▲ 38.6	25.6	▲ 38.4	▲ 29.6	▲ 7.4	▲ 39.8
10~12	▲ 32.1	11.3	▲ 29.7	▲ 23.1	▲ 2.0	▲ 35.8
H24.1~3	▲ 41.8	14.5	▲ 41.4	▲ 31.9	▲ 4.7	▲ 41.4
4~6	▲ 32.3	17.6	▲ 29.9	▲ 22.0	▲ 6.0	▲ 32.3
7~9	▲ 36.6	10.6	▲ 35.0	▲ 26.4	▲ 4.6	▲ 35.1
10~12	▲ 26.8	9.3	▲ 27.0	▲ 23.0	▲ 1.3	▲ 29.4
H25.1~3	▲ 29.7	11.3	▲ 29.7	▲ 25.9	▲ 3.3	▲ 24.7
4~6	▲ 21.1	22.2	▲ 29.0	▲ 16.5	▲ 2.7	▲ 21.1
7~9	▲ 9.2	26.5	▲ 20.8	▲ 20.3	▲ 2.0	▲ 18.8
10~12見通し	▲ 20.2	22.3	▲ 18.5	▲ 17.0	▲ 2.0	▲ 23.4



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

平成25年7-9月期の日本経済を概観すると、アベノミクスのプラス効果が実体経済に徐々に波及し、回復のテンポが強まっている。ちなみに、日銀短観9月調査から、大企業の業況判断DIをみると、製造業では+12%ポイントと前回（6月）調査対比+8ポイントの大幅改善を示したほか、幅広い業種でDIが改善している。

一方、福井県経済（7-9月期）も、一部で弱い動きがみられるものの、総じてみれば持ち直しの動きを強めている。ちなみに、企業部門では、製造業で繊維、眼鏡枠などの地場産業で苦戦を強いられているが、一般機械の持ち直しに加え電子部品・デバイス分野で増勢を持続。設備投資も政策効果などから持ち直し感が強い。一方、家計部門でも、新車販売が苦戦ながら、大型店販売が持ち直しており、住宅需要も消費税率アップ前の駆け込み需要から増勢基調を強めている。

こうした中、今期（H25年7-9月期）の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目のうち、仕入単価（逆指数）（前期22.2→今期26.5）、資金繰り（前期▲16.5→今期▲20.3）を除く4項目で改善傾向を示している。ちなみに、売上高が前期▲21.1から今期▲9.2へ、採算が前期▲29.0から今期▲20.8へ、従業員数が前期▲2.7から今期▲2.0へ、業況が前期▲21.1から今期▲18.8へと改善した。また、来期（平成25年10-12月期）の見通しについては、売上高、業況の2項目で悪化予測が強まっており、いまだ楽観できない状況であることがうかがえる。

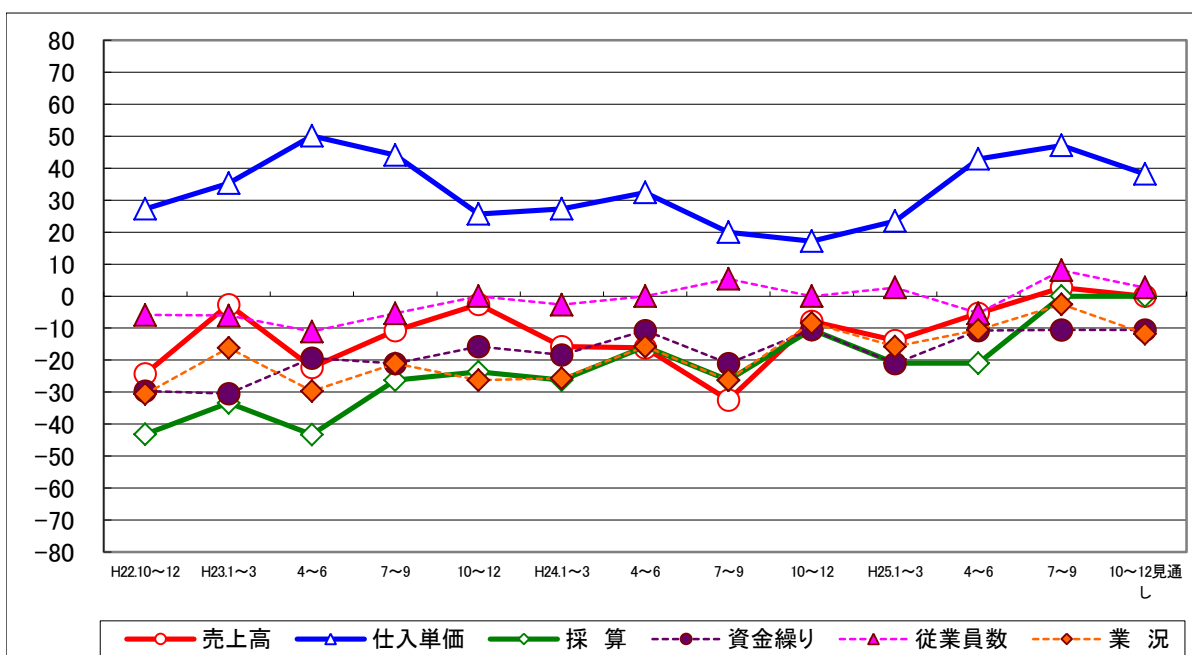
また、売上高と採算につき、そのDI値を全国と比較すると、全国（▲21.8）に比べ、福井県は売上高の改善傾向（福井県の11.9ポイント改善に対し、全国は0.6ポイントの改善）が強く、採算面でも全国が▲29.3で前期比1.2ポイント悪化する中、福井県は改善（8.2ポイントの改善）を示すなど、両項目とも全国を上回る水準にある。

一方、今期の新規設備投資実施状況については、計画の11.3%に対して実施が12.8%となり、実施が計画を上回っている。また、先行き（H25年10-12月期）については、ほぼ同水準の11.0%の企業で設備投資を計画している。

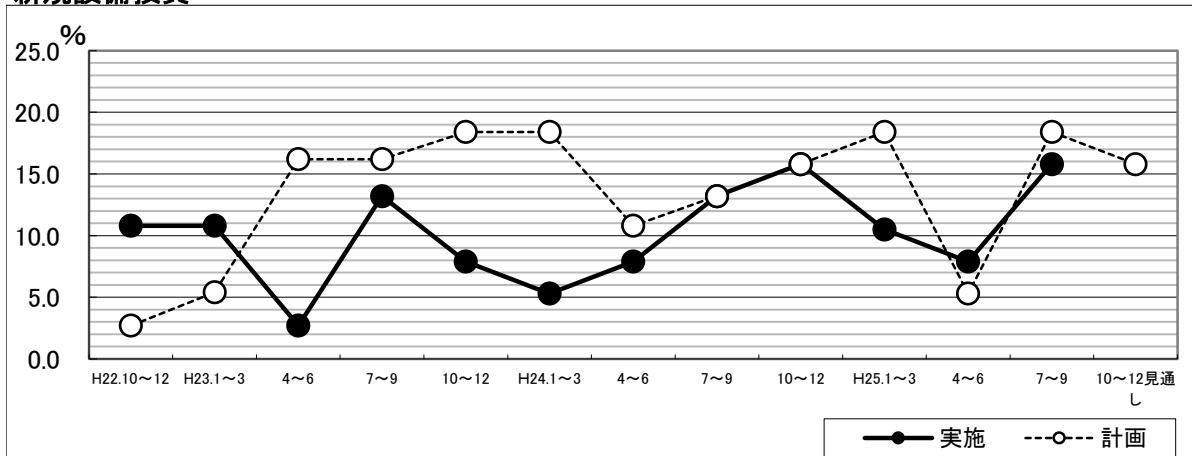
製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

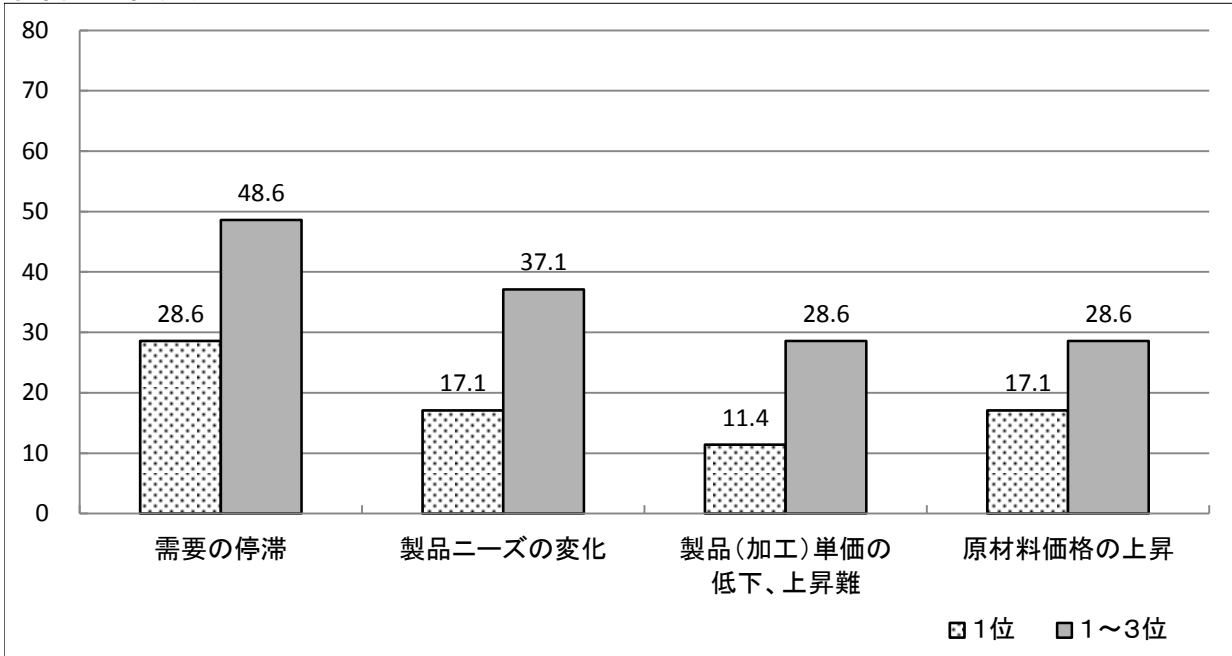
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H22.10~12	▲ 24.3	27.3	▲ 43.2	▲ 29.7	▲ 5.9	▲ 30.6
H23.1~3	▲ 2.7	35.3	▲ 33.4	▲ 30.5	▲ 6.1	▲ 16.2
4~6	▲ 22.3	50.1	▲ 43.3	▲ 19.4	▲ 11.1	▲ 29.7
7~9	▲ 10.8	44.1	▲ 26.3	▲ 21.1	▲ 5.4	▲ 21.1
10~12	▲ 2.6	25.7	▲ 23.7	▲ 15.8	0.0	▲ 26.3
H24.1~3	▲ 15.8	27.3	▲ 26.3	▲ 18.4	▲ 2.7	▲ 25.7
4~6	▲ 16.2	32.4	▲ 15.8	▲ 10.8	0.0	▲ 15.8
7~9	▲ 32.5	20.0	▲ 26.3	▲ 21.1	5.4	▲ 26.3
10~12	▲ 7.9	17.2	▲ 10.5	▲ 10.5	0.0	▲ 8.4
H25.1~3	▲ 13.9	23.5	▲ 21.0	▲ 21.1	2.7	▲ 15.8
4~6	▲ 5.4	42.9	▲ 21.0	▲ 10.8	▲ 5.4	▲ 10.6
7~9	2.7	47.1	0.0	▲ 10.6	8.1	▲ 2.6
10~12見通し	0.0	38.2	0.0	▲ 10.6	2.7	▲ 11.8



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・売上は伸びているものの、外注比率が高まり、利益率が低下している。より付加価値の高い商品を開発し消費税増税に備える。
- ・売上が増加してよいのですが、材料が値上げされているため利益につながらない。販売価格を上げるのも難しいと思っています。

製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、海外経済減速の影響が徐々に後退する中、概ね堅調な受注・生産を維持している。業種別では、引き続き繊維、眼鏡枠などの地場産業で弱い動きとなっているが、電子部品・デバイスはスマートフォン向けを中心に増産が続いているほか、化学も化粧品、医療用キャビネット・カートや医薬品分野（ジェネリック医薬品）などで生産水準を引き上げている。一般機械も産業機械をはじめ金属工作機械などで引き合いが増加するなど、総じて回復感が強い。

こうした中、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目中、仕入単価（逆指数）（前期42.9→今期47.1）を除く5項目で改善傾向を示した。項目別では、売上高が前期▲5.4→今期2.7）、採算（前期▲21.0→今期0.0）、資金繰り（前期▲10.8→今期▲10.6）、従業員数（前期▲5.4→今期8.1）、業況（前期▲10.6→今期▲2.6）となっている。ただ、先行き（H25年10-12月期）については、仕入単価を除く5項目で弱気なものとなっており、この背景には、業種間、規模間による格差の問題、昨今の円安による原材料価格アップの売上への転嫁難などの問題が影響しているものと思われる。

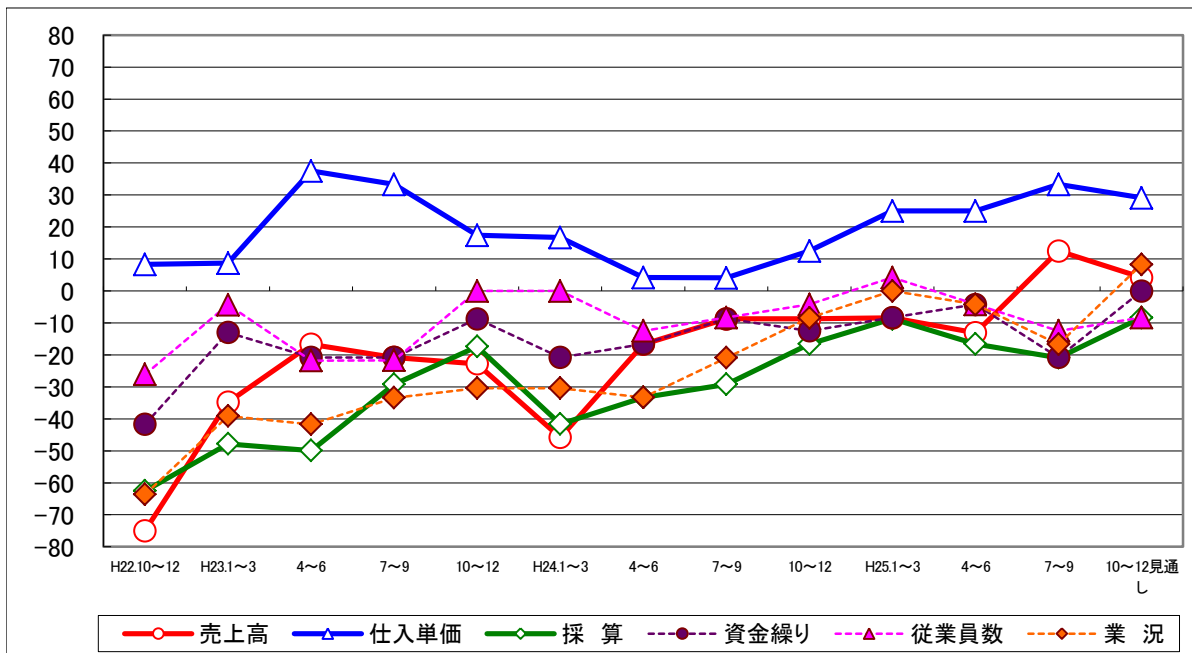
一方、今期の新規設備投資実施状況については、計画18.4%に対し、実施が15.8%となり、実施が計画をやや下回ったものの勢いは強い。また、先行き（H25年10-12月期）についても15.8%の企業で何らかの設備投資を計画している。

その他、経営上の問題点については、前期に引き続き「需要の停滞」を指摘する企業が多く、1位に挙げた企業ウエイトが28.6%、1位～3位までに挙げた企業ウエイトも48.6%を占めた。次いで、「製品ニーズの変化」への指摘が、1位に挙げた企業ウエイト17.1%、1位～3位までに挙げた企業ウエイト37.1%と続いている。ただ、昨今の傾向として、売上は伸びているものの、原材料の高騰が販売価格の転嫁まで繋がっておらず利益を圧迫するケースがうかがえ、地域中小企業の場合、これにどう対処するか、例えば販売価格のアップ、より高い付加価値性の追求、一層のコスト低減など、どのような選択をするかが大きな課題となっている。

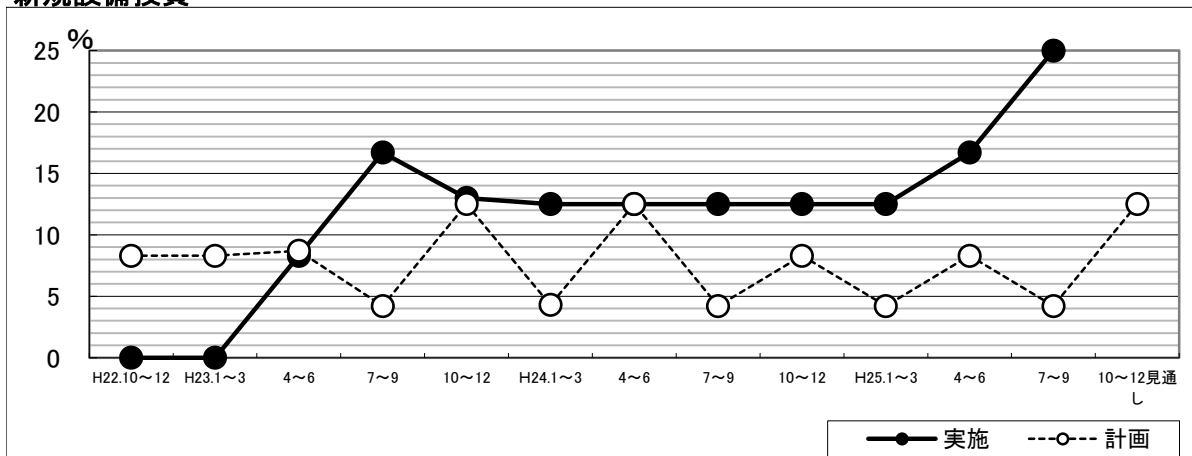
建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

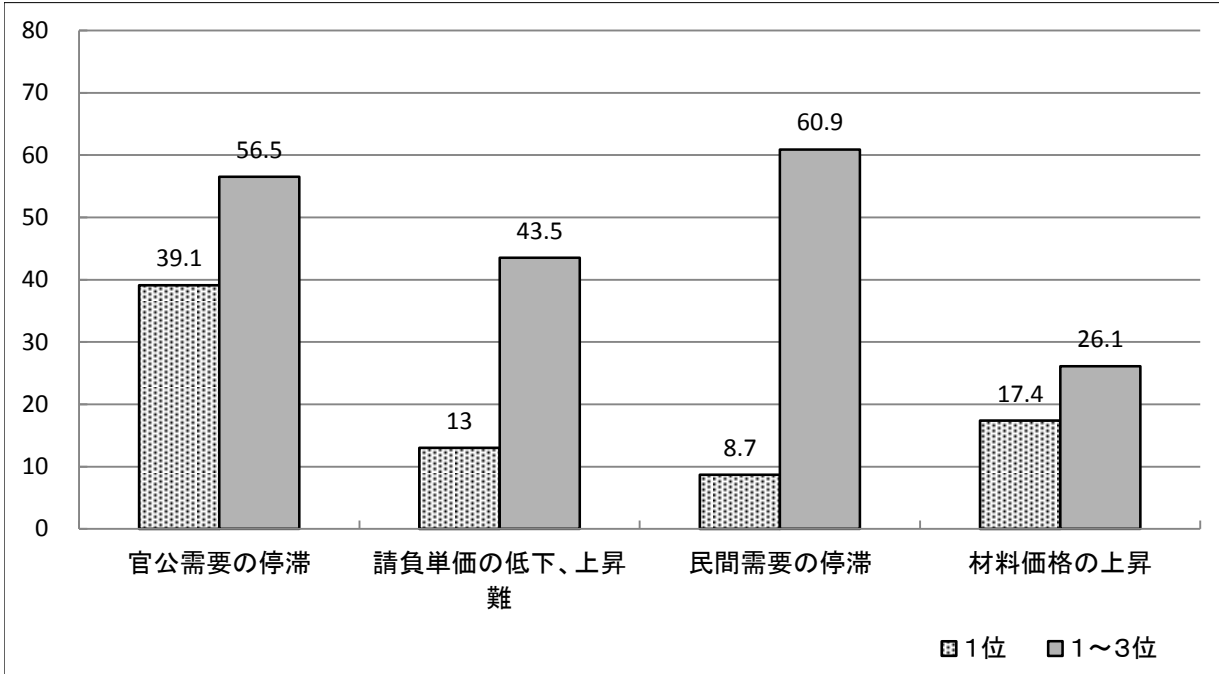
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H22.10~12	▲ 75.0	8.3	▲ 62.5	▲ 41.7	▲ 26.1	▲ 63.6
H23.1~3	▲ 34.8	8.7	▲ 47.8	▲ 13.0	▲ 4.3	▲ 39.1
4~6	▲ 16.7	37.5	▲ 49.9	▲ 20.8	▲ 21.8	▲ 41.7
7~9	▲ 20.8	33.3	▲ 29.2	▲ 20.8	▲ 21.7	▲ 33.4
10~12	▲ 22.8	17.4	▲ 17.4	▲ 8.7	0.0	▲ 30.4
H24.1~3	▲ 45.8	16.7	▲ 41.6	▲ 20.8	0.0	▲ 30.4
4~6	▲ 16.7	4.2	▲ 33.3	▲ 16.6	▲ 12.5	▲ 33.3
7~9	▲ 8.7	4.1	▲ 29.2	▲ 8.7	▲ 8.3	▲ 20.9
10~12	▲ 8.7	12.5	▲ 16.6	▲ 12.5	▲ 4.2	▲ 8.4
H25.1~3	▲ 8.4	25.0	▲ 8.7	▲ 8.3	4.2	0.0
4~6	▲ 13.1	25.0	▲ 16.6	▲ 4.2	▲ 4.2	▲ 4.2
7~9	12.5	33.3	▲ 20.9	▲ 20.8	▲ 12.5	▲ 16.7
10~12見通し	4.2	29.1	▲ 8.3	0.0	▲ 8.3	8.3



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・参議院選挙のせいか官公の工事発注量が少なかったと思う。今年後半の官公庁の発注増に期待したい。
- ・施工管理の技術者の確保ができない。官公庁の工事は増加して受注も容易になってきたが、2,500万円以上の工事に対しての管理者がなかなか確保できない。

建設業の景況

福井県内における平成25年7-9月期の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は、7-9月期累計で453億88百万円の前年同期比26.0%増、発注件数でも同1,446件の同18.9%の増加となった。ちなみに発注者別では、県関連工事が195億34百万円の同26.7%増、市町村関連工事が148億96百万円の同16.9%増、国家関連工事が57億88百万円の同56.7%増であった。

一方、住宅投資については、平成25年4月から平成25年8月までの累計で、前年同期比15.6%増の1,668戸となっている。利用関係別では、主力の持家が前年同期比18.5%増の1,196戸、貸家が同12.7%増の324戸となっている。来年4月の消費税率アップを見込んだ駆け込み需要から住宅投資は大きく増加している。

しかし、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目中、売上高（前期▲13.1→今期12.5）を除く5項目で悪化傾向を示している。ちなみに、各項目の指数をみると、仕入単価（逆指数）が前期の25.0→今期33.3であったほか、採算が前期▲16.6→今期▲20.9、資金繰りが前期▲4.2→今期▲20.8、従業員数が前期▲4.2→今期▲12.5、業況が前期▲4.2→今期▲16.7へと悪化した。しかし、先行き（H25年10-12月期）については、売上を除く5項目で改善予測が立てられている。

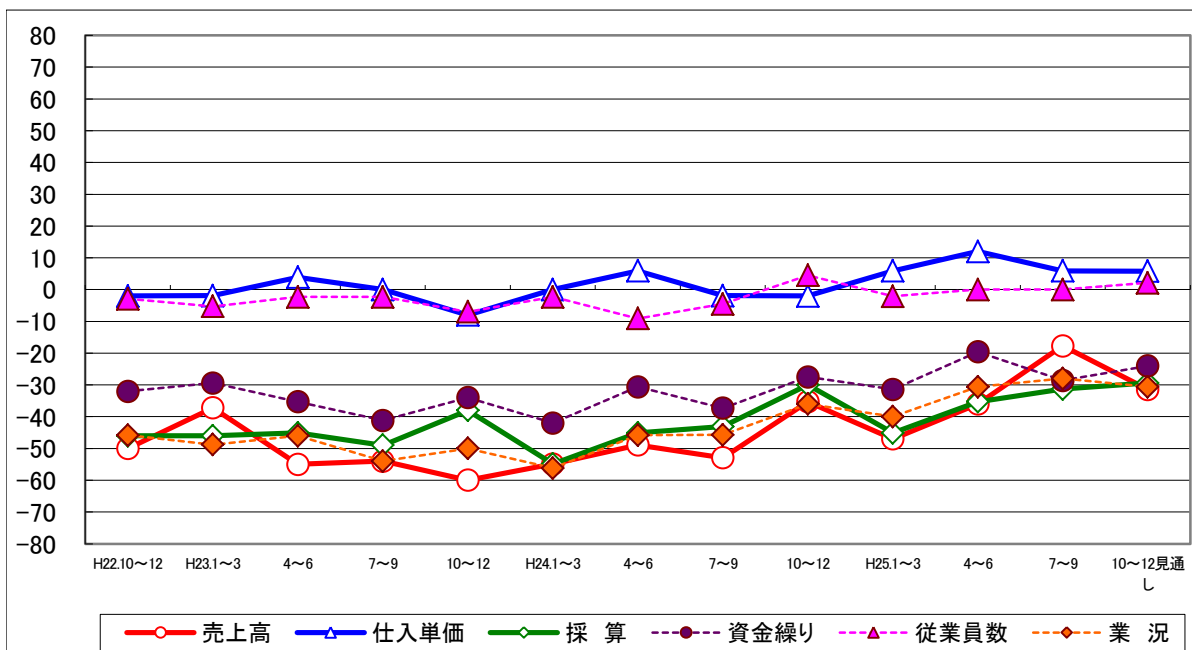
一方、新規設備投資については、計画の4.2%に対し、実施が25.0%と、実施が計画を大きく上回った。また、来期（H25年10-12月期）の見通しについても、計画している企業ウエイトが12.5%とまずまずの状況となっている。

最後に、経営上の問題点については、「官公需要の停滞」を1位に挙げる企業ウエイトが39.1%を占め最多となった。ただ、1位～3位に挙げた企業ウエイトでは「民間需要の停滞」への指摘が最も多く60.9%に達している。その他、「請負単価の低下、上昇難」への指摘は、1位に挙げた企業ウエイトが13.0%、1位～3位に挙げた企業ウエイトが43.5%となったほか、「材料価格の上昇」への指摘も、1位に挙げた企業ウエイト17.4%、1位～3位に挙げた企業ウエイト26.1%と比較的多い。その他、施工管理者の確保難なども問題点として挙げる企業が散見された。

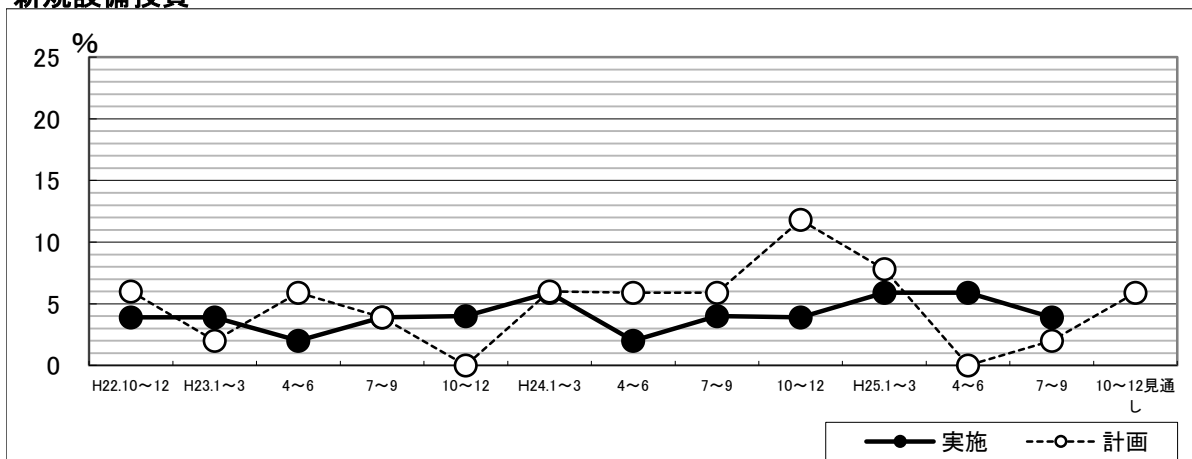
小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

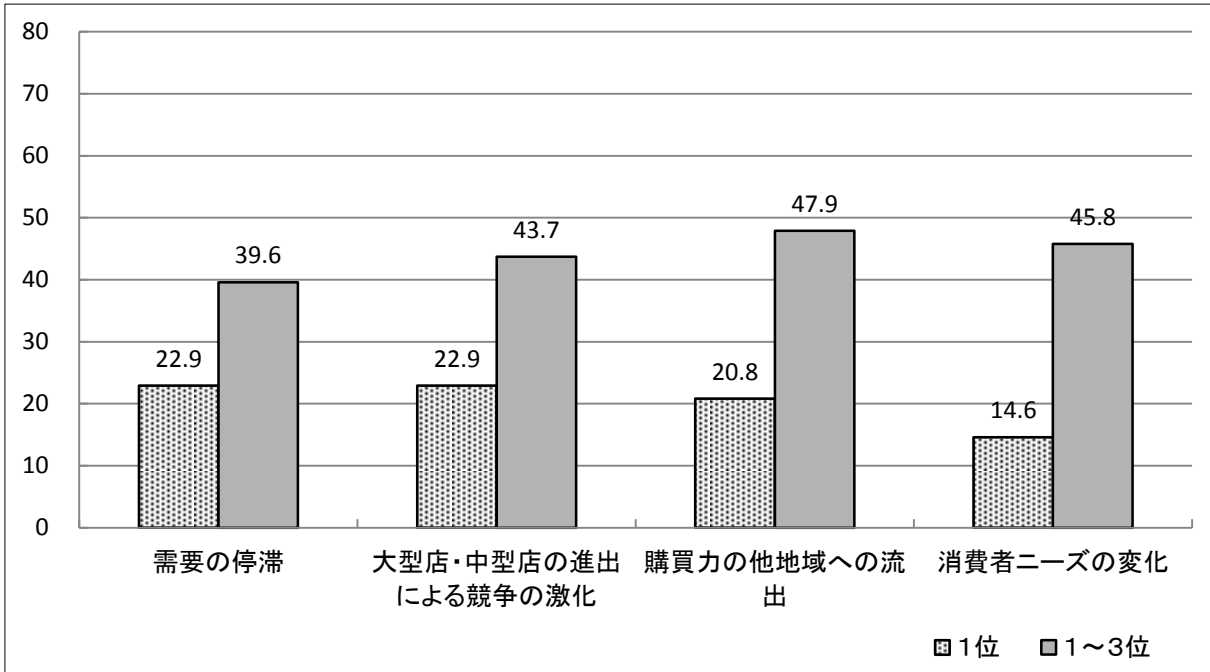
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H22.10~12	▲ 50.0	▲ 2.0	▲ 46.0	▲ 32.0	▲ 2.9	▲ 45.8
H23.1~3	▲ 37.2	▲ 1.9	▲ 46.0	▲ 29.4	▲ 5.3	▲ 48.8
4~6	▲ 55.0	3.9	▲ 45.1	▲ 35.3	▲ 2.3	▲ 46.0
7~9	▲ 54.0	0.0	▲ 49.0	▲ 41.2	▲ 2.3	▲ 54.0
10~12	▲ 60.0	▲ 8.0	▲ 38.0	▲ 34.0	▲ 7.0	▲ 50.0
H24.1~3	▲ 54.9	0.0	▲ 54.9	▲ 42.0	▲ 2.3	▲ 56.2
4~6	▲ 48.9	5.9	▲ 45.1	▲ 30.6	▲ 9.1	▲ 45.8
7~9	▲ 52.9	▲ 1.9	▲ 43.1	▲ 37.3	▲ 4.5	▲ 45.7
10~12	▲ 35.3	▲ 2.0	▲ 30.0	▲ 27.5	4.5	▲ 36.0
H25.1~3	▲ 47.0	5.9	▲ 45.1	▲ 31.4	▲ 2.1	▲ 40.0
4~6	▲ 36.0	12.0	▲ 35.3	▲ 19.6	0.0	▲ 30.6
7~9	▲ 17.7	5.9	▲ 31.3	▲ 28.6	0.0	▲ 28.0
10~12見通し	▲ 31.4	5.8	▲ 29.4	▲ 24.0	2.1	▲ 30.6



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・店舗、設備の老朽化により経費がかかるが、資金がなく、現状維持で営業している状態。借入があるため、少々の経営の工夫をしても好転する見通しが無い。
- ・今夏は猛暑の影響で昨年に近い売上があったが、来期以降良い材料もなく相変わらず厳しい状況が続く見込みである。

小売業の景況

近畿経済産業局が発表する県内大型小売店販売額状況（百貨店＋スーパー、全店ベース）をみると、平成25年1-8月累計で486億19億円の前年同期比3.0%増と堅調な動きを示している。ちなみに、直近8月のデータから、商品別の動向をみると、衣料品が不冴えながら、身の回り品、飲食料品、家具・家電・家庭用品等で大きな伸びを示しており、円安、株高を背景とした資産効果や足元の雇用環境改善の動きを受け、消費マインドは、今暫く持ち直しの動きを続けるものと思われる。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示す6項目のDI値のうち資金繰り（今期▲19.6→▲28.6）を除いた5項目で改善傾向或いは横ばいを示した。ちなみに、売上高が前期の▲36.0から今期▲17.7へ、仕入単価（逆指数）が12.0から今期5.9へ、採算が▲35.3から今期▲31.3へ、従業員数が前期と横ばいの0.0、業況が前期の▲30.6から今期▲28.0となっている。また、今後の見通し（H25年10-12月期）についても、仕入単価（逆指数）、採算、資金繰り、従業員数の4項目で改善予測となっており、持ち直し感は強まるものと期待される。

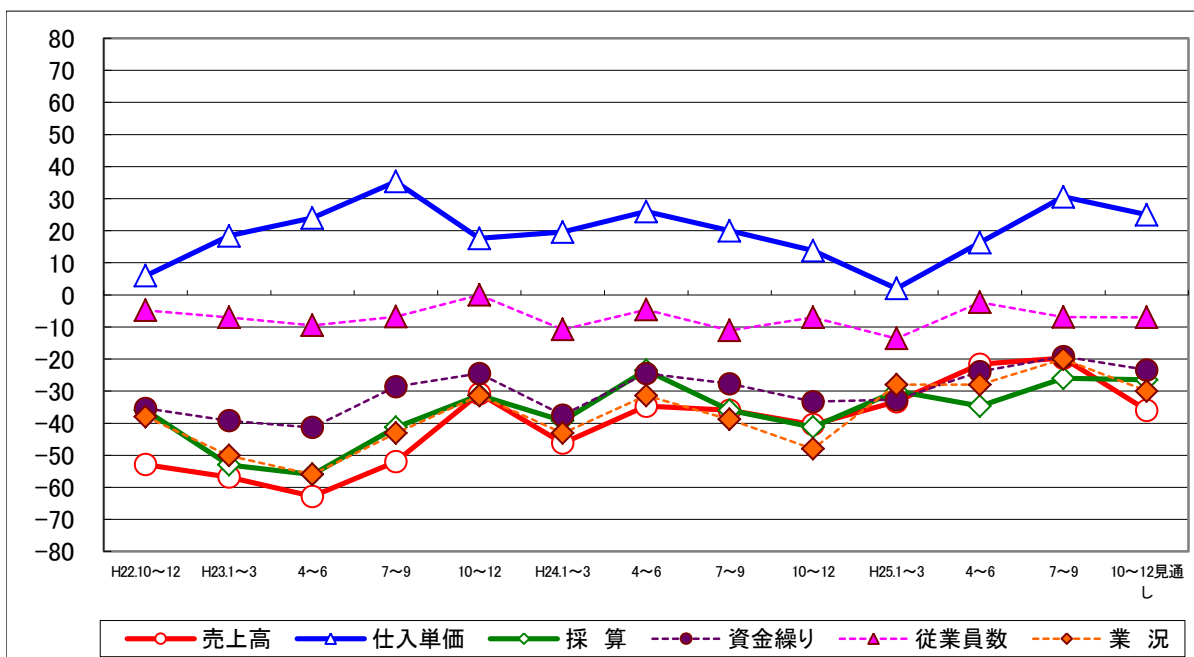
一方、新規設備投資については、今期の計画2.0%に対し3.9%の企業が実施している。また、先行き（H25年10-12月期）については計画している企業が5.9%と、やや増加する傾向が予測されるが、総じて見れば、県内小売業の投資意欲は今暫く低調な状況が続くと見るべきであろう。

最後に、経営上の問題点については、「需要の停滞」及び「大型店・中型店の進出による競争の激化」への指摘が、1位に挙げた企業ウエイト22.9%で同率となった。ただ、1位～3位に挙げた企業ウエイトを見ると、「大型店・中型店の進出による競争の激化」への指摘が43.7%を占め、比較的多い（「需要の停滞」への指摘は39.6%）。その他、「購買力の他地域への流出」への指摘は、1位に挙げた企業ウエイト20.8%、1位～3位に指摘する企業ウエイトは47.9%で最多となっているほか、「消費者ニーズの変化」への指摘は、1位に指摘した企業ウエイト14.6%、1位～3位の企業ウエイト45.8%あり、多様な課題を抱える小売業界の経営環境がうかがえる。

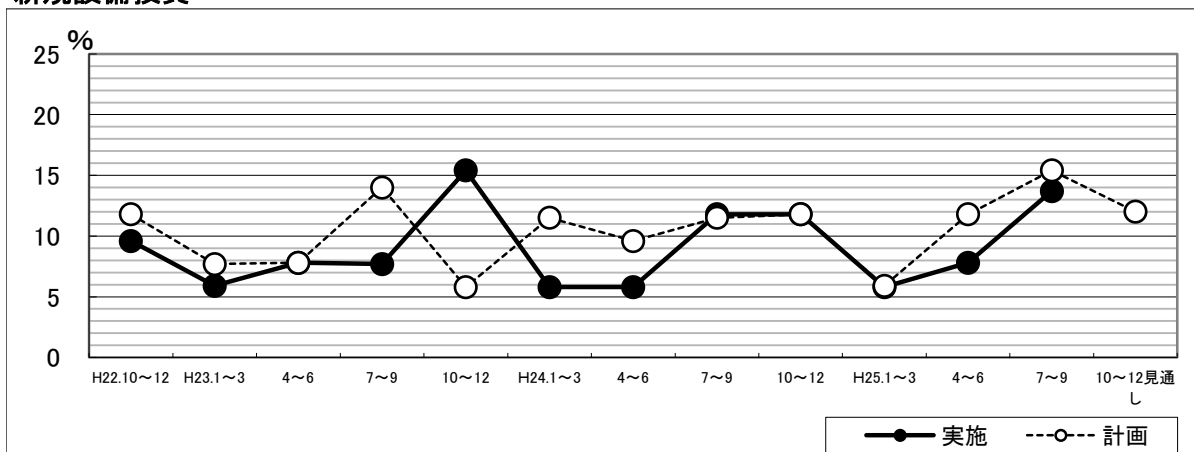
サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

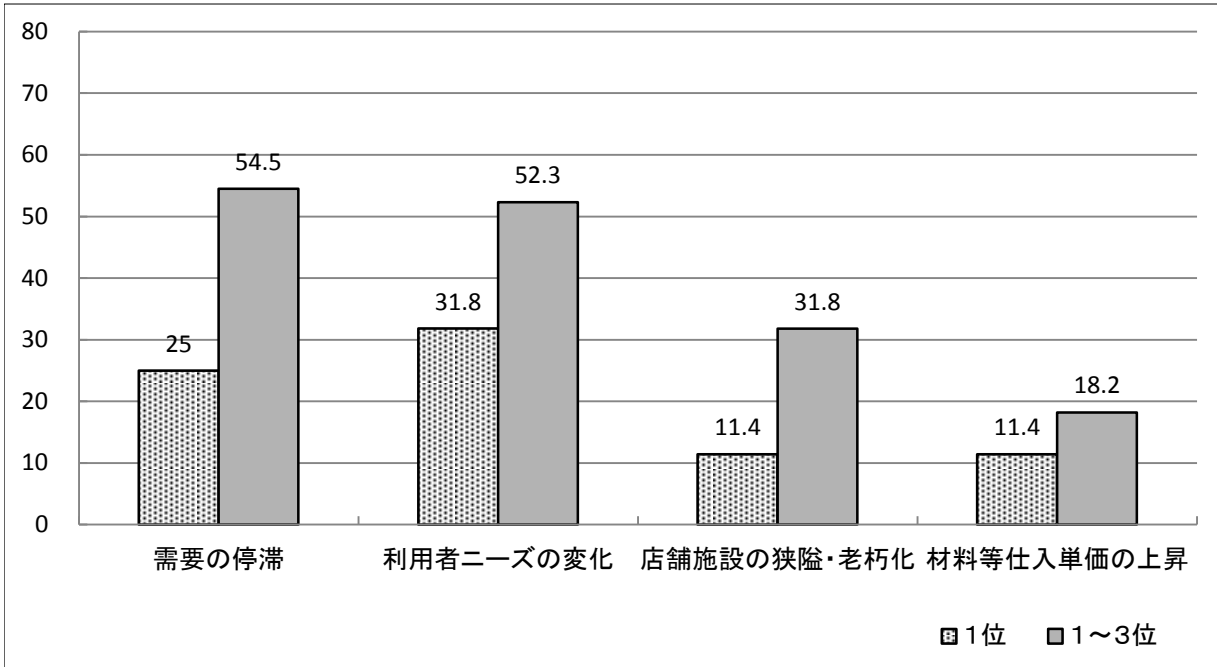
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H22.10~12	▲ 52.9	6.0	▲ 36.0	▲ 35.4	▲ 4.8	▲ 38.0
H23.1~3	▲ 56.8	18.4	▲ 53.0	▲ 39.2	▲ 7.0	▲ 50.1
4~6	▲ 62.8	24.0	▲ 56.0	▲ 41.3	▲ 9.5	▲ 56.0
7~9	▲ 52.0	35.3	▲ 41.3	▲ 28.6	▲ 6.8	▲ 43.1
10~12	▲ 30.8	17.6	▲ 31.3	▲ 24.5	0.0	▲ 31.4
H24.1~3	▲ 46.2	19.6	▲ 39.2	▲ 37.5	▲ 10.8	▲ 43.1
4~6	▲ 34.7	26.0	▲ 23.5	▲ 24.5	▲ 4.6	▲ 31.4
7~9	▲ 36.0	20.0	▲ 36.0	▲ 27.7	▲ 11.1	▲ 38.8
10~12	▲ 40.4	13.8	▲ 41.2	▲ 33.3	▲ 7.0	▲ 48.0
H25.1~3	▲ 33.3	2.0	▲ 30.0	▲ 32.7	▲ 13.6	▲ 28.0
4~6	▲ 21.6	16.3	▲ 34.7	▲ 23.9	▲ 2.3	▲ 28.0
7~9	▲ 19.7	30.6	▲ 26.0	▲ 19.2	▲ 6.9	▲ 20.0
10~12見通し	▲ 36.0	25.0	▲ 26.5	▲ 23.4	▲ 7.0	▲ 30.0



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

・暑い日が続いたため、夏休み期間は売上が大幅増となったが、低価格の商品のみ売れたため増収とはならなかった。燃料の灯油・電気料金の値上げが経営に大きく影響した。

サービス業の景況






経済産業省が毎月公表する第3次産業活動指数（季節調整値、2005年＝100）の中から、サービス業の動き（H25年8月）をみると、全体ではH17年を100とした水準で100.4とやや上回っていることがわかる。業種別では、「卸売業、小売業」、「学術研究、専門・技術サービス業」、「情報通信業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「生活関連サービス業、娯楽業」、「医療、福祉」、「その他サービス業（公務等を除く）」で上昇。「金融業、保険業」、「不動産業、物品賃貸業」、「電気・ガス・熱供給・水道業」、「学習支援業」、「複合サービス事業」が低下。「運輸業、郵便業」が横ばいとなっている。




























































こうした中、景況調査をみると、福井県のサービス業では、DI値6項目中4項目が改善、残り2項目で悪化を示すなど、項目間でその評価にバラツキがみられる。この要因は、業種業態により景況感に格差が出ているためであろう。ちなみに、前期と今期を比較すると、売上高（▲21.6→▲19.7）、仕入単価（逆指数）（16.3→30.6）、採算（▲34.7→▲26.0）、資金繰り（▲23.9→▲19.2）、従業員数（▲2.3→▲6.9）、業況（▲28.0→▲20.0）となっている。また、先行き（H25年10-12月期）については、仕入単価（逆指数）を除く5項目で悪化予測が立てられるなど、総じて厳しい予測が立てられている。

一方、新規設備投資については、計画15.4%に対し実施が13.7%と、実施が計画を下回ったものの、先行き（H25年10-12月期）については、何らかの投資を計画している企業が12.0%に達するなど、投資意欲は引き続き高いことが期待される。

最後に、経営上の問題点については、前回同様、「需要の停滞」への回答が、1位に指摘した企業ウエイト25.0%、1位～3位までに指摘した企業ウエイト54.5%と高い水準となった。ただ、「利用者ニーズの変化」の1位に指摘した企業ウエイトは31.8%と最も高い。また、同項目の1位～3位に指摘した企業ウエイトも52.3%を占めている。その他、少ないながらも「店舗施設の狭隘・老朽化」、「材料仕入単価の上昇」を指摘する企業（其々1位に指摘した企業ウエイト11.4%）もみられた。

全国・福井景気動向 平成25年7月～9月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～-40	-40.1～-100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 21.8	33.8	▲ 29.3	▲ 18.7	▲ 3.2	▲ 24.2
	製造業						
	DI値	▲ 16.3	42.1	▲ 25.0	▲ 17.2	▲ 3.5	▲ 20.4
	建設業						
	DI値	▲ 3.4	46.0	▲ 18.4	▲ 8.5	▲ 1.0	▲ 6.3
	小売業						
	DI値	▲ 35.5	20.7	▲ 39.1	▲ 26.5	▲ 3.0	▲ 38.0
	サービス業						
	DI値	▲ 22.9	34.3	▲ 28.9	▲ 17.8	▲ 4.2	▲ 23.6
福井	全体						
	DI値	▲ 9.2	26.5	▲ 20.8	▲ 20.3	▲ 2.0	▲ 18.8
	製造業						
	DI値	2.7	47.1	0.0	▲ 10.6	8.1	▲ 2.6
	建設業						
	DI値	12.5	33.3	▲ 20.9	▲ 20.8	▲ 12.5	▲ 16.7
	小売業						
	DI値	▲ 17.7	5.9	▲ 31.3	▲ 28.6	0.0	▲ 28.0
サービス業							
DI値	▲ 19.7	30.6	▲ 26.0	▲ 19.2	▲ 6.9	▲ 20.0	

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。